

会報

第71号 (2025/8/5)

〒720-0082
広島県福山市木之庄町 4-3-14
Tel&Fax 084-917-5937
Mail h5s21bm6@ene.megaegg.ne.jp



Community Renaissance
Research Center

今後の予定

ジェロントロジー研究会

9月19日(金) 10時〜

- ・場 所: ルネッサンス研究所
- ・参加費: 300円

・内 容: 『地域包括ケアのすすめ』
もうじき終わり『老後ひとり難民』に入ります。

「ケアの社会学」を読む会

9月18日(木) 16時半〜

- ・場 所: ルネッサンス研究所
- ・参加費: 300円
- ・読む本: 上野千鶴子著『ケアの社会学』
- ・内 容: 「ワーカース・コレクティブの創業支援システム」^{P.311}よりグリーン・コープの福祉ワーカース・コレクティブの章です。

連続講座 オカリナがふけるよ!

9月9日(火)・24(水) 13時〜14時半

- ・講師: 村山ひろみさん

(福山市立大学名誉教授)

- ・場 所: ルネッサンス研究所 集会室

- ・参加費: 500円

11月に開催予定の「仁伍音楽祭」にむけて発表する曲などを練習しています

問い合わせ・申込先

NPO法人コミュニティルネッサンス研究所
電話・FAX: 084-917-5937
メール: h5s21bm6@ene.megaegg.ne.jp

今号の内容

- ・仁伍鯉祭りに参加しました
- ・理事会、総会、臨時総会を行いました
- ・REGIONOグループ中島氏の講演
- ・ワークショップとケアワークの統合化の先にあるものについて
- ・今年度実施事業について
- ・ヤギの赤ちゃんを見て少子化を思う
- ・編集後記

活動報告

仁伍鯉祭りに参加しました

五月五日、「仁伍鯉祭り」に参加しました。明王台高校書道部による書道パフォーマンスはとてパワフルで圧巻でした。

私たちNPO法人「アマンテイオカリナ」の皆さんも6曲演奏しました。とくに『さとうきび畑』のメロディーは「地域の絆」の皆さんの歌声とともに爽やかな五月晴れの空の青さに染込んでいくようでした。

バザーの釣り堀も好評でたくさんの子供たちや親子連れでにぎわいました。



青春してます

願いは一つ 平和

どれにしようかな?

2025 年度通常総会を開きました

6月7日、2025年度通常総会を開きました。定款どおり総会が成立していることを宣言した後、第1号議案から順次提案が行われ採択されました。たくさんのご参加ありがとうございました。



REGIONOグループ・中島氏の講演 「ソーシャルワークとケアワークの 統合化の先にあるもの」について

牧田 幸文



21世紀に入り、日本の障害者支援に関する施策は、障害者本人の声を反映させる方向へとより具体的に転換している。

その重要な一例が、2003年に施行された支援費制度であり、これにより従来の措置制度から、サービス利用者が自分でサービスを選択できるようになったことが挙げられる。日本は2014年に国連の「障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）」に批准し、「社会的障壁」の除去を重視する「社会モデル」の形成を促進する契機となった。批准後の2016年には「障害者差別解消法」が施行され、その中で「社会的障壁」は、障害者の日常生活、または社会生活において継続的に制限をもたらす要因として定義された。この「社会的障壁」には、物理的なバリアだけで

なく、偏見や無理解といった、心理的なバリアも含まれる。

物質的なバリアについては、すでに1960年代からバリアフリーやユニバーサル・デザインの推進により、障害者の公的領域へのアクセスが改善されてきた。もう一方で、心理的なバリアには、障害者の社会参加に伴う不安や恐怖、彼（女）らが直面する偏見や差別、無理解など、見えにくい障壁が含まれる。これらによって、障害者が「生きづらさ」を感じて暮らしている現状があり、物質的・心理的なバリア双方を取り除くことを目指す、共生社会の実現が重要視されている。

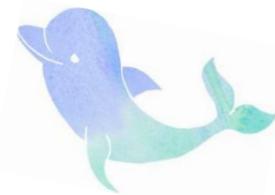
このような日本の障害者支援に関するマクロな政策の枠組みの中で、中島氏は、当事者の声に耳を傾けつつ、生活を支援するソーシャルワーカーやケアワーカーの役割を再構築し、その統合的な連携を提案している。とりわけ、地域福祉の専門職であるソーシャルワーカーが、社会変革や社会開発を率先して担い、社会的結束の強化や人々のエンパワメント、そして解放の促進に積極的に関与するべきだと主張する。

このようなビジョンは、従来のソーシャルワーカーと福祉サービス利用者との間に存在する支配的・権力的な援助関係を問い直し、その構造からの脱却を促すものである。その実現のためには、パートナーリズムに基づく支援の在り方を維持してきたソーシャルワーカー自身が自らの姿勢と実践を見直し、自己変革を遂げる必要があるという。

同様の課題は、高齢者ケアの分野においても指摘されている。たとえば、近年では認知症高齢者に対する「その人らしい暮らし」の支援が重視されるようになってきたが、その背景には、これまでのケアが、当事者本人の意向や視点よりも、家族や支援者の都合や判断を優先して行われてきたという問題がある。ケアワーカーらが良かれと思う高齢者への身体・生活支援が、当事者の声を十分に反映せずに提供されてきたことへの反省と見直し、「その人らしさ」の尊重という理念を支える基盤となっている。

こうしたケアに関する権力関係の背景を踏まえ、ソーシャルワーカー自身の変革によって、ケアを提供する側と 受ける側との関係性をより対等で共感的なものへと改善していく必要があるという。そこで中島氏は、地域において障害者との「出逢い直し」の重要性を提起している。障害のない人々の多くは、障害者が社会の中で抱える「生きづらさ」に十分に触れる機会がなく、そもそも障害者と出逢う経験そのものが乏しい。中島氏は、このような「出逢いの不在」こそが深刻な課題であり、それを乗り越えるための「出逢い直し」が地域社会において不可欠であると主張している。障害者との「出逢い」や「出逢い直し」は、障害者に限らず、高齢者や外国籍住民など、多様な人々との場合でも重要である。私は他者との「出逢い」の機会から、それぞれの立場と思いに触れることを通じて、共に生きる社会を 構築するための重要な契機であると考え、「出逢い」を通じて、私

たちとは異なる背景をもつ人々と日常を共にするための共生社会への実現に向けて、想像力を育てていくことが、いま求められているのではないだろうか。



今年度実施事業について

次のような行事予定を計画しました。

1. 昨年同様の活動(オカリナ教室、ジエロントロジー、ケアの社会学、地域の絆の祭り参加、ヤギ・ウサギの世話など)
2. スマイル仁伍で正月飾り作り
3. コミュニティカフェ仁伍へ自立と支え合いの地域づくりをめざして、
 - ・ 同封のチラシのように毎月第一木曜日に行います。(六回の講座)
 - ・ 初回は特別養護ホームの方に大阪空襲のお話をしていただきます。

なお、福山市の生涯学習振興基金から5万円の助成金がもらえることになりました。

ヤギの赤ちゃんを見て

少子化を思う

加納三千子

今年もヤギの赤ちゃんが5月初めに生まれました。子ヤギを見るといつも思うのです。子どもころ、従兄弟のよちよち歩きの子どもが飼った犬の耳など、めっちゃめっちゃに触っているのに、犬は「しゃあないな」という感じでジッとしていました。ところが5歳くらいになった子どもが頭や耳をつつくとおこっていたことを。

ヤギの様子も面白いなあと思います。母親ヤギはもちろんですが、母親でない大人のヤギも、子ヤギが周りをチヨロチヨロすると、「うるさいなあ」という感じで、軽く頭で突いて「おとなしくしな」と言っているようです。決して強くはあたりません。だんだんと子ヤギが大きくなると力も強くなっているように思えますが。

また、最近ネットなどでも、犬がヒトの赤ちゃんを「かわいいなあ」というように体をすり寄せている場面がよく出てきます。

犬にしるヤギにしる、自分より小さい生き物と認識したらかわいがって保護するように大事に扱っているように思います。それに引き換え、最近人間の親が「育児放棄や」虐待」をして問題になることが多く、どうなっているのだろうと思います。

少子化が問題になっているのに、なぜそんなコースが最近多いのかと。

その原因の一つとして、男性も育休を取得できる時代になり、子どもを連れだした父親の姿が昔に比べると格段に多くなっています。ネットなどで感じるのは、それでもまだまだ育児は母親の仕事のように思う男性も多いのだと思います。

高齢化と言われ始めて久しくなります。なぜヒトは生殖期が過ぎても生きられるのでしょうか？

う？哺乳類で生殖期以後も生きてるのはヒトとシヤチとゴンドウクジラの3種のみだと言われています。この3種はいずれも社会的育児をしている、と言う特徴があるそうです。

なかでもヒトは頭が大きくなり、200万年位前から他の哺乳類に比べて難産となり、命がけの出産になったといえます。ゴリラ等の赤ちゃん等は、他の動物に襲われる恐れがあるので泣きません。ところが人間の赤ちゃんは泣きわめきまです。保護者は、おっぱいが欲しいのか、おしめが濡れているのか、と気をもみます。そのほか、サル等は毛があるので赤ちゃんは母親に抱きつきます。しかし人間の赤ちゃんは抱っこが必要です。また、動物は生後しばらくすると親と同じものを食べるようになりますが、ヒトは離乳もしなければなりません。ですからヒトの場合、子育てに母親以外に高齢女性がフォローしてきたという「おばあちゃん伝説」があります。そのことが生殖期を過ぎても人間が長生きできることにつながっており、男性よりも女性が長生きする

理由もこのあたりにあるようです。高度経済成長期頃まで、農村部では大家族が当たり前で、おばあちゃんの出番がありました。最近では核家族が多くなり、その代わりに保育園が整備されてはいますが、公費で出産できるようにし、もともと子育てのフォローができない限り子ども数は増えないのではないかと思います。



おおきくなるよ。

編集後記



朝も 昼も 夜中にも

滝のような汗・あせ・アセ……

水分補給は勿論

栄養補給も忘れずに

この猛暑を乗り切ろう

(大)

NPOへのお便り募集

コミュニティルネへのお便りを募集します。

ご感想・ご意見などをTEL・FAX
又は メールアドレスにお寄せ下さい。

